

今年度と今後の取り組みについて

資料 3

取り組み	課 題	計 画	成 果	今 後
事業カードの取り組みを拡充	・事業カードの取り組みが、庁内と伊賀市文化都市協会に留まっている。 ・庁内でも一部、提出できていない部署がある。	公益文化団体へのヒアリング時に、事業カードの取り組みについて理解を得て、提出に繋げる。そのために、ヒアリング実施期間を通年とし、実施を強化する。	公益文化団体へのヒアリングを実施することができ、事業カードの取り組みについて理解を得て、提出いただけた。事業における課題を洗い出し、現状を聞き取ることができた。	・市民、地域、文化団体等へ、文化振興プランについて説明を行うことで、文化活動の理解を得て、事業カードの提出に繋げる。 ・ヒアリングを継続して実施し、事業連携や見直し等を図る。 ・イベント情報等の文化情報の共有を図る。
		公益文化団体を通じて、サークル団体などへ周知する方策を検討する。	サークル団体などへ文化振興プランの説明や意見交換会への参加を案内し、一定の理解を得ることができた。引き続き行うことで、事業カードの提出に繋げる。	
		市民センターに配置されている生涯学習支援員に説明し理解を得て、住民自治協議会など地域での文化活動の事業カードの提出に繋げる。	生涯学習支援員に、文化振興プランについて説明し、一定の理解を得ることができた。引き続き文化振興プランについて説明を行うことで、文化活動の理解を得て、事業カードの提出に繋げる。	
伊賀市文化振興条例、伊賀市文化振興ビジョンの周知拡大	・市民、地域、事業者に、伊賀市文化振興条例、伊賀市文化振興ビジョンの存在が広く浸透しているとは言い難い。 ・条例、ビジョンの周知のため、告知媒体に「伊賀市文化振興条例及び伊賀市文化振興ビジョンに基づく事業」の記載をするようにしたが、現在、取り組みは庁内と伊賀市文化都市協会に留まっている。	公益文化団体へのヒアリング時に、告知媒体への記載の取り組みについて理解を得て、記載に繋げる。	庁内各課へ会議等で記載依頼や、公益文化団体へのヒアリング時の説明により、一定の事業について告知媒体への記載をすることができた。	・告知媒体への記載について、取り組みを継続し定着化させる。 ・条例、ビジョンの周知について文字では視認性が低いいため、ロゴマークを作成する。
意見交換会の充実	・コロナ禍により意見交換会の開催ができていなかったが、前年度初めて開催した。意見交換の時間が60分間であったため、参加者からはもう少し時間がほしいとの意見もあった。また、無作為でのグループ分けであったため、それぞれの立場での意見となり議論が深まらなかった。	意見交換の時間を長くとり、議論を深めてもらえるようにする。	意見交換の時間について、前回は60分間だったが今回は90分間とした。	・継続して開催することにより意見交換会の開催を定着化させる。 ・自分たちの活動がよりよくなるためにという視点を重視して議論してもらえるようにする。
		幅広に参加者を集めるのではなく、まずは近い分野ごとにグループ分けをし、焦点を絞って議論ができるように開催方法を検討する。	近い分野ごとにグループ分けをし、テーマを決めて議論する開催方法とした。	
		自分たちの活動がよりよくなるためにという視点を重視して議論してもらえるようにする。	開催案内を早めに行ったり、開始前に意見交換会や文化振興プランについて説明したりしたことで、おおむねテーマに沿った議論を行えた。	